

九州から食の未来を考える

Shaping the
Future of Food
from Kyushu.



date

2025
12/7^{SUN}
10:30~12:40

place

長崎大学文教キャンパス
文教スカイホール

気 候変動や環境問題により、タンパク質を生産する養殖業や畜産業の成長が停滞する一方、人口増加などによって需要は増え続けており、近い将来その需要が供給を上回る「タンパク質危機」が懸念されています。この課題を解決するためには、養殖の効率化や新たなタンパク質生産技術の開発が重要です。本シンポジウムでは、最新の研究や大学発ベンチャーの取組みに加え、魚食推進による地域活性化の事例もご紹介します。九州から食の未来を共に考える機会となれば幸いです。

申込みはこちらから→



2025

12/7_土 10:30~12:40

プログラム

10:30-10:40

開会挨拶
趣旨説明

征矢野 清（ながさきBLUEエコノミー PL・長崎大学海洋未来イノベーション機構長）
吉田 朝美（長崎大学水産学部 教授・日本水産学会九州支部 庶務幹事）

第一部

大学発ベンチャーが変える新たな養殖業の未来

座長：征矢野 清（ながさきBLUEエコノミー）

10:40-10:55

超高速の品種改良で日本の水産業に貢献する

荻野 哲也（リージョナルフィッシュ株式会社 研究開発部 無脊椎育種グループリーダー）

10:55-11:10

温暖海域における持続可能なサケマス養殖：
高温耐性種苗の作出によるサクラマス生産

内田 勝久（宮崎大学農学部 教授・株式会社Smolt 技術顧問）

11:10-11:20

ながさきBLUEエコノミーと魚食推進による地域活性化の取り組みについて

松本 誠司（ながさきBLUEエコノミー 副PL・長崎大学海洋未来イノベーション機構 准教授）

11:20-11:30 休憩

第二部

食料危機解決の鍵となる次世代食品

座長：吉田 朝美（長崎大学水産学部）

11:30-11:40

細胞農業：未来の食を支える科学の可能性

洪 貴美子（The Good Food Institute Japan マネージングディレクター）

11:40-11:50

畜肉や魚類の細胞を培養してつくる「細胞性食品」の開発動向

洲鎌 なつ（日本細胞農業協会 シニアサイエンティスト）

11:50-12:05

次世代の水産食品を考えよう

上野 幹憲（長崎大学水産学部 助教）

12:05-12:20

ニワトリ胃(砂肝)の培養肉化でフードロスを減らそう

中村 真子（九州大学大学院農学研究院 教授）

12:20-12:35 総合討論

座長：吉田 朝美（長崎大学水産学部）

12:35-12:40

閉会挨拶

長富 潔（日本水産学会九州支部 支部長・長崎大学水産学部 教授）

